

# よみがえる緑の草原

## 日の尾牧野 12年ぶりの野焼き再開までの歩み

日の尾牧野における野焼き再開を事例として、阿蘇草原再生に向けた取り組みを紹介します。

高岳と根子岳の麓、阿蘇谷からもよく見える位置にある日の尾牧野（総面積 178ha）では、野焼きの飛び火による山林火災の頻発により組合員の心理的負担が増大したため平成7年から野焼きを中止。それ以降、草原は荒廃し、景観や生物多様性への影響も懸念されるようになりました。

平成18年、組合員の高齢化と草原の荒廃が進んでいく中、今、野焼きを再開するラストチャンスとして組合員が立ち上がり、それに賛同した阿蘇市、阿蘇グリーンストック、環境省間で良好な野草地環境の再生について検討を進め、平成20年6月に約60haで野焼きを実施しました。

### 野焼き再開の実現まで

#### ➔ 1. 牧野組合の意思決定 (H16年～)

野焼き再開には延焼などの危険性を伴うため、牧野組合と関係者間で約3年に及ぶ慎重な協議を重ね、実施を合意しました。

#### ➔ 2. 実施計画策定 (H18年～H19.3月)

牧野の現況調査、ヒアリング調査に基づき課題を整理した上で、安全な野焼きに必要な事項について検討し、計画をまとめました。

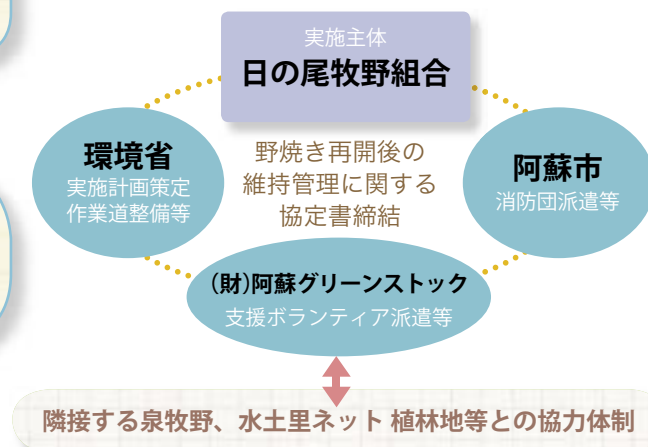
#### ➔ 3. 協力体制の整備 (H19.8月)

野草地の再生及びその後の維持管理・保全について4者間で協定書を締結。隣接する牧野や周辺の県有林・民有林などの管理者との協力体制も整備しました。



打ち合わせの様子

現地調査



### 野焼きを終えて 牧野組合の方々より

#### 野焼きのあと、盆花の開花に感動しました。

今後は後継者不足が一番の問題。ボランティアの人たちが、加勢するだけでなく、例えば牛を持ったり畑を作ったりして農畜産にも関わってもらい、交流が広がっていいと思います。

(岩永照雄組合長)



事故もなく、無事に終わってホッとしました。過去の失火の経験から事故や延焼が一番の心配でした。火を入れると風が起これり、斜面を登る火は早くて非常に危険。現場では十分な注意を呼びかけました。(寺川節夫氏)



皆さんの支援があって野焼きが実現しました。野焼き再開は3～4年も議論した結果です。畜産業は厳しい状況ですが、整備された作業道などを活かし、ボランティアの皆さんの協力も得ながら草原を守っていきたい。(田島今朝信氏)



ボランティアの皆さんの熱心に励まされました。野焼き再開は協力者の熱意があって組合の決断に至りました。現場ではボランティアの皆さんの一所懸命な姿が組合員のやる気を一層おこさせてくれました。(中村辰司氏)



火入れは経験と連携プレーが大事です。日の尾にはいくつも尾根があり、火入れの時は風向きや燃え方などを判断しながら火を引きます。80歳の私も野焼きに参加して、火入れの仕方を若い者に伝えるよう心がけました。(草野昇三氏)

